

湖北の医療を守る 病院再編のこれから



充実した湖北の医療

私たちが暮らす湖北地域においては、4つの病院が医療提供の中心を担い、みなさんの暮らしと健康を守ってきました。

車なら市内のどこからでも30分以内に行けるアクセスの良さや、高度な医療を担う病院が2か所（市立長浜病院、長浜赤十字病院）もあることで、ほとんどの病気は湖北で治療を完結できる状況です。



変わりつつある医療ニーズ



しかしながら、湖北の医療を取り巻く環境は日々変化し、人口減少や少子高齢化の影響により、求められる医療の姿は大きく変わろうとしています。**急性期医療※1のニーズは減りますが**高度急性期の重要性はさらに高まります。また、**慢性期医療※2のニーズが高まり、**そのすべてに対応できないという状況が見込まれます。

国・都道府県が進める医療提供体制の改革

国民の医療費は増加の一途を辿っています。特に医療の高度化に伴うコストの増加が大きいことから、医療ニーズに応じた病床数の適正化が必要です。そのため都道府県が**医療圏域**※3ごとに「**地域医療構想**」を策定し、病床数の再編を進めています。

地域医療構想

※3 都道府県が策定する医療計画のなかで病院等の病床整備を図るために定める地域の単位。湖北医療圏域：長浜市・米原市

働き方改革

医師不足により、現在の医療は**医師の長時間労働**によって支えられています。**医師の勤務環境を改善**するため、厚生労働省が医療機関等に労働時間の見直し等の取り組みを求めています。対応するには**医師配置の見直しと業務の効率化**などが必要となります。

大学（附属病院）からの要望

湖北圏域における病院は京都大学と滋賀医科大学関連の多数の医師に支えられています。

そのような中、令和4年6月22日、京都大学附属病院と滋賀医科大学から以下の趣旨の**要望書**が長浜市長に出されました。

要望の内容

- 病院間の診療科の重複をなくすため、**病院再編計画を早急に進めてほしい**
- 病院再編が進まない場合、市立長浜病院と長浜赤十字病院の双方に**重複して医師配置の協力は困難**である。

要望書全文の写し

長浜市長
浅見宣義 殿

要望書

市立長浜病院と長浜赤十字病院に勤務する医師の大部分は、京都大学と滋賀医科大学の各診療科・講座の協力を支援を受けながら湖北地方の地域医療に従事しております。長浜市においては、両病院で共に急性期医療と慢性期医療を担っておりますが、医師不足の厳しい環境の中で各病院に勤務する医師たちの不断の頑張りで日々の医療が支えられているのが実情です。しかしながら、2024年から開始される医師の働き方改革の環境においては、これまでのやり方で地域住民の急性期医療を支えるのは極めて困難であり、特に夜間の緊急対応は不可能であろうと思われます。一方、2020年に滋賀県から提案された厚生労働省から重点支援区域として認定された湖北地方の地域医療構想においては、湖北地方の病院を急性期病院1つと回復期・慢性期病院2つに再編する提案がなされておりますが、この構想はまさに地域住民に最良の医療（高度急性期医療も含めた湖北地域における地域完結型医療）を提供しながら、医師の働き方改革にも対応可能なシステムであります。さらに、この構想における環境下では、医療人の良好な人材育成が期待できることから、医師・看護師不足の中でも優秀な医療人を長期にわたって獲得できる可能性が高く、したがって将来を見据えた持続可能な医療環境を湖北地域に構築できるものであります。なお、両大学で各診療科・講座の責任者の意見を聴取しましたが、すべての診療科・講座の責任者から上記の地域医療構想に基づく病院再編を早急に進めてほしいとの回答を得ております。

以上の理由により、2020年に厚生労働省から認定された重点支援区域地域医療構想を基本的な考えとする病院再編計画を早急に進めていただくことを強く要望いたします。また、働き方改革の観点から、病院再編が進まない場合には、原則としていずれの診療科においても、市立長浜病院と長浜赤十字病院の双方に重複して医師配置の協力は困難であることをお伝えいたします。

令和4年6月22日

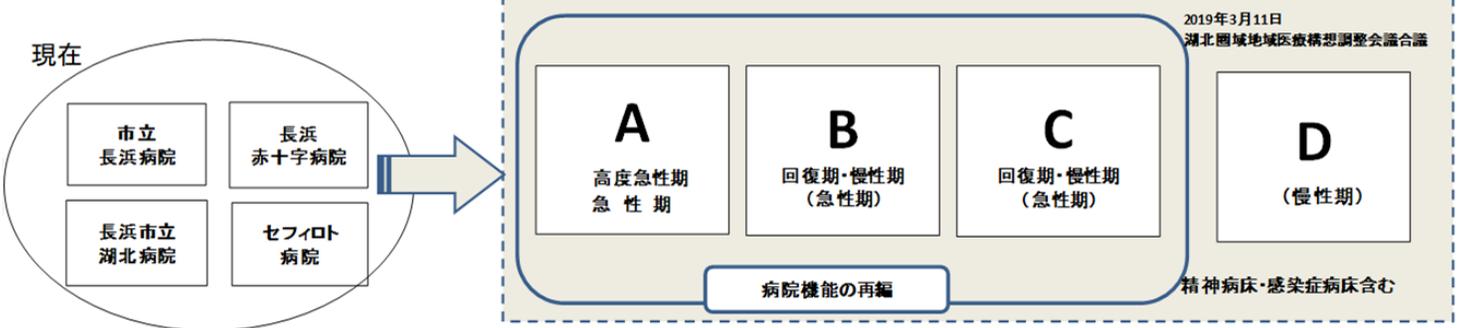
京都大学医学研究科長・医学部長 岩井一宏
京都大学医学部附属病院長 宮本 享
滋賀医科大学学長 上本伸二
滋賀医科大学附属病院長 田中俊宏

滋賀県と4つの病院の取り組み

医師派遣を巡る課題解決が急務となる中、滋賀県と4病院長（市立長浜病院長、長浜赤十字病院長、長浜市湖北病院長、セフィロト病院長）は地域医療調整会議にて「病院機能の再編案」に合意し、その実現を目指しています。

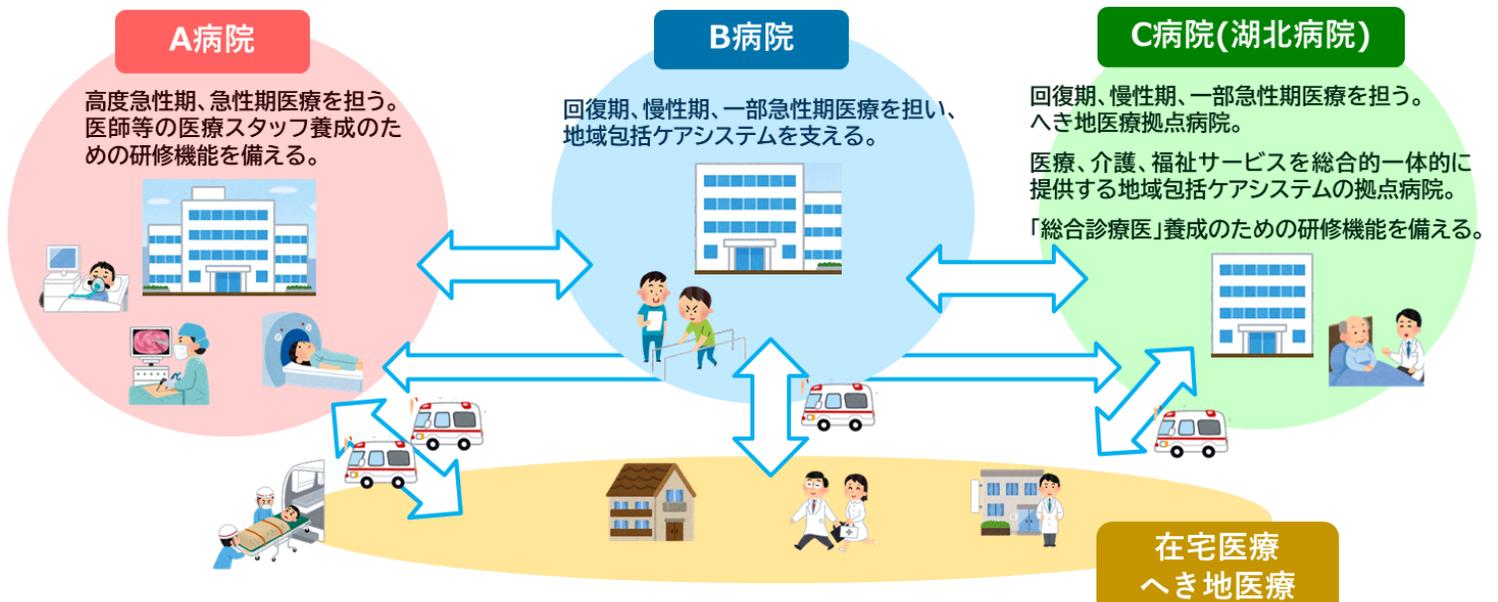
4病院による病院機能の再編案

2025年までの再編案(イメージ図)



長浜市が目指す湖北の医療

再編案におけるABCDの病院像を踏まえ、長浜市では「地域完結型の持続可能な医療提供体制」の構築を目指しています。



(参考：第2回検討委員会資料 資料2「長浜市の地域医療ビジョン 地域完結型の持続可能な地域医療を守るために」P.2)

- 人口減少、人口構造の変化と医療ニーズの変化や「医師の働き方改革」に対応
- 高度急性期・急性期・回復期・慢性期医療、へき地医療などそれぞれの医療が適切に提供され、身近で頼りになる「かかりつけ医」との切れ目のない連携を実現
- 必要な医療が地域全体で一体的に提供される地域完結型の持続可能な医療提供体制

「病院経営の一体化」と検討委員会

病院再編の実現に向け、市では**病院経営の一体化**に向けて「病院再編にかかる長浜市立2病院経営形態検討委員会」を設置しました。同委員会には専門知識や経験を有する有識者や医師、企業経営者、市民代表等に参画いただき、よりよい病院の経営形態等を議論していただきました。

湖北にふさわしい市立2病院の経営形態は、どのようなものなのか？
どのような経営形態で、経営の一体化をする方がいいのか？

生まれた3つの経営形態の選択肢

- (1) 3病院・地方独立行政法人化
- (2) 指定管理者制度
- (3) 2病院先行・地方独立行政法人化



検討委員会における意見とりまとめ（報告書要約）

本検討委員会では、選択可能な経営形態について議論を進めてきたが、医療提供体制の再編にかかる前提条件が定まっていない中では議論の集約には及ばず、様々な角度からの委員意見が併存することとなった。そのため検討委員会としては、**いずれの経営形態が最善かということに関するとりまとめには至らなかった**。しかしながら、湖北の医療を維持し発展させるため、以下3点を**多数委員の合意事項**として整理された。

- 医師の働き方改革に向けた診療科の集約が急務であること
- 具体的な時期を示しながら病院機能の再編及び経営の一体化を早期に実現させること
- 市立長浜病院と長浜赤十字病院に関しては、当面の間は既存の建物を活かしながら、将来的に大成亥町で高度急性期・急性期を集約した新しい病院を創ること

長浜市長から市民のみなさんへ

市民の生活基盤である湖北の医療提供体制を維持します。

病院職員のみなさんが活躍いただける労働条件等の環境を整えます。



病院再編に関する最新情報は長浜市HPにて公開しています！
<https://www.city.nagahama.lg.jp/category/8-2-12-0-0-0-0-0-0-0.html>



【問合せ先】長浜市健康福祉部地域医療課 TEL 0749-65-6550 / FAX 0749-65-6570